

## 事前評価報告書

Advisory Board Meeting 開催日：平成17年7月28, 29日

評価委員：（敬称略、アルファベット順）

Prof. Masuo Aizawa (Tokyo Institute of Technology), Prof. Fritz Aldinger (Max Planck Institute for Metals Research), Prof. Akio Etori (Edogawa University), Prof. Jean Etourneau (Institut de Chimie de la Matière Condensée de Bordeaux), Prof. Colin Humphreys (University of Cambridge), Dr. Tetsuro Ohashi (National Traffic Safety and Environment Laboratory), Dr. Leslie E. Smith (National Institute of Standards and Technology), Prof. Marcel Van de Voorde (European Commission Research), Dr. Stan Williams (Quantum Science Research, Hewlett-Packard), Prof. Hiroaki Yanagida (University of Tokyo)

課題名	ナノ〜マイクロ組織制御による構造材料の高性能化技術の構築
研究責任者の所属・氏名	超鉄鋼研究センター 津崎 兼彰
<b>【項目】</b>	<b>評価結果</b>
コメント及びアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的な研究である。</li> <li>・非常に重要なプロジェクトである。戦略と目標がはっきりしている。</li> <li>・テーマの設定に妥当性がある。また独立行政法人の研究所としての使命を果たしている。</li> <li>・これはNIMSの長年の強みである。超鉄鋼研究プロジェクトで得た研究成果をMg合金やTi合金などの軽量材料へ展開するのは、将来を見据えた良いアイデアである。</li> <li>・目標は重要である。研究の科学的 content と、それがNIMSの研究構成にうまく適合するという事実が印象的であった。</li> <li>・これはプロジェクトのプレゼンテーションの最高のものの一つである。</li> <li>・重要な領域であるが、基礎・応用共に非常に複雑である。</li> <li>・汎用材料のブレークスルーとして評価出来る。次世代研究者を引きつける魅力を目指して欲しい。</li> <li>・ここで述べられている共通の技術はマルチスケールの構造制御である。この原理がどのようにして全サブテーマで使われるか明白であり、成功することが重要であることもはっきりしている。さらにはっきりさせるべき点は、この研究によってマルチスケール構造制御の共通的理解がどのように増すかである。</li> </ul>
評価点	A+, A+, A+, S, A+, B, S, A+, N/A, A
総合評価点※	A

N/A=No Answer

※評価点の点数は10(S), 9(S-), 8(A+), 7(A), 6(A-), 5(B+), 4(B), 3(B-), 2(C+), 1(C)とする。総合評価点は評価委員の点数の平均点（小数点第二位以下四捨五入）をXとすると、S:X=10, S-:9≤X<10, A+:8≤X<9, A:7≤X<8, A-:6≤X<7, B+:5≤X<6, （以下同じ考え方）・・・とする。